

# 朝鮮通信使の舞台・相島

～世界の記憶 朝鮮通信使～

## 朝鮮通信使、「世界の記憶(世界記憶遺産)」に登録

江戸時代、「朝鮮通信使」は朝鮮半島から日本に派遣され、日本と朝鮮の信頼関係を深めるため12回の来日を行った外交使節です。

その一行について記述された日韓の文書や絵画などが「朝鮮通信使に関する記録」として「世界の記憶」として正式に登録されました。

通信使の寄港地である福岡藩(12回の来日のうち11回)は、一行の接待や文化人の交流の場所を相島として手厚くもてなしました。

今回登録された資料の中に新宮町からのものはありませんが、「航海の中で初めて見る神仙境である(『海游録』より)」と相島とそこからみえる風景や客館の様子などが、通信使による日本紀行の中に記載されています。

このように記載された風景は、実際に相島で観ることができます。

それは、鼻栗瀬(めがね岩：福岡県指定名勝)や福岡藩が朝鮮通信使を迎えるために造った波止場(前波止・先波止)や、井戸跡などです。

ユネスコ「世界の記憶」に登録された「黒田家文書」の朝鮮通信使関連資料の15冊



福岡県立図書館所蔵

## 世界の記憶(世界記憶遺産)とは

ユネスコ(国連教育科学文化機構/UNESCO)が行っている「世界遺産」「世界無形遺産」と並ぶ三大遺産事業の一つで、人類にとって貴重な歴史的な文書等の記録類を、最新の技術を使って保存し、広く公開することを目的とし「世界の記憶」とも呼ばれています。現在登録されているものに「マグナ・カルタ」「アンネの日記」などがあり、2011(平成23)年には山本作兵衛が描いた筑豊炭田の炭鉱画が日本で初めて登録されました。

今回、「朝鮮通信使に関する記録」「上野三碑」が登録され日本からは7件となりましたが、「朝鮮通信使に関する記録」は日韓共同申請のため、国内の登録件数には含まれません。

## 朝鮮通信使とは

江戸時代、徳川将軍の代替わりのたびに、お祝いの目的で朝鮮から王の手紙を持って来日し、将軍から返書を持ち帰った使者を朝鮮通信使といました。

通信使とは「信(よしみ)を通わす使節」の意味で、つまりお互いに信頼関係を深めあう使節でした。徳川幕府260年あまりの間に通信使は12回来日していますが、うち11回が相島に来島しています。



## 朝鮮通信使への“おもてなし”

### 毎回新築！朝鮮通信使客館

300名～500名の通信使一行を迎えるため、毎回新しく官人小屋を新築し、帰国後に取り壊しています。

10回目の来島時には大小40棟の板葺きの小屋が建てられたと記録されており、通信使による『東槎録』には「館舎は新築し、軒・柱・梁・垂木・垣根に至るまで皆竹で作り」とあり、青々とした竹が大変美しかったようです。

朝鮮通信使客館は若宮神社横から南西の位置に1.5km近くの広大な敷地を有していたようです。



現在は石碑が残るのみです

### まさにフルコース？引き替え膳

幕府は沿道の各藩に対し、通信使の官位によって献立の基準を示し、通信使を手厚くもてなすよう通達しました。

儀式用の「七五三の膳」、そして食べるための「引き換え膳」2種類を出すように指示していますが、福岡の黒田藩では山海の珍味を彩りよく飾り、食器や盃などもすべて毎回金銀を塗った華やかな器を新調しています。

一行に提供する食材は、米・酒・味噌・醤油・酢などの数が指示されており、魚や・豚・猪・鳥（キジ）・山菜・野菜・果物・菓子と豊富な種類を提供しており、さながら現代のフルコースのようでした。

特に藩の威信も掛かっていることもあり黒田藩のおもてなしは大変好評で、

「食事が最も手厚く、応接の態度も長門(山口)、筑前(福岡)が最も優れていた」と、通信使側の記録も残っております。再現した膳のレプリカを新宮町歴史資料館で見ることができます。

### 当時の風景を相島で楽しむ

#### 今でも活躍中！先波止・前波止

通信使を迎えるため、延べ3, 850人の島民が先波止と前波止を造り上げました。先波止からは通信使の一行が上陸しました。

対馬藩主や随行者は前波止を利用し現在では町営渡船「しんぐう」の船着き場として、島民・観光客にとっての島の玄関口となって今でも活躍しています。



先波止

#### 今でも残る「井戸」

相島には深い山や大きな川もありません。多くの通信使を迎えるためには何より用水の確保が課題でした。そこで、既存の井戸に加え12か所の井戸を新たに掘りました。

現在でも若宮神社にある角井戸、御茶屋跡の丸井戸の2か所が姿を変えず残っており、実際に観ることが出来ます。

#### 石に刻まれた「記憶」—墓碑拓本

第9次通信使が来日の際、準備をしていた相島に台風が襲来しました。

被害も大きく40隻あまりの迎護船が破損し、藩士12名、浦水夫49名が

犠牲となりました。積石塚群調査時に、犠牲者の名前を記した墓碑拓本が発見されました。

### 詳しい歴史が知りたい方は

シーオーレ新宮4階の町立歴史資料館には、通信使をもてなした食事のレプリカや客館跡の調査したときに出土した陶磁器の破片や通信使船の模型などを展示しております。

### 新宮町立歴史資料館(入館無料)

福岡県糟屋郡新宮町新宮東二丁目5-1 シーオーレ新宮4階 TEL:092-962-5511

開館時間：9時30分から17時00分まで 休館日：毎週月曜日および年末年始（12月28日～1月4日）